

モニタリング調査結果報告書

- ⇒ 大会名 **檜枝岐サラマングートレイル**
- ⇒ 大会開催日 **2017年6月25日 (日曜日)**
- ⇒ モニタリング地点 **沼山峠下、 大杉林道、 御池古道**

※ 大会前々日のトレイル調査で、大杉林道からの稜線の積雪が多く確認され
 また、大会当日の天気予報が雨になっていたため、コースを変更しました
 大杉林道は実際には大会で使用していませんが、前日、レース後の
 土壌調査を行なっています

- ⇒ **モニタリング調査実施日 (レース前) 2017年6月24日 (土曜日) 晴れ**

※ 別紙参照

- ⇒ **モニタリング調査実施日 (レース後) 2017年7月6日 (木曜日) 曇り**

※ 別紙参照

- ⇒ モニタリング地点 1 **沼山峠下**

- モニタリング区間を土壌高度計を使って調査
- 地点座標 **N36° 56' 56.30"**
E139° 20' 09.84"
- 表土区分： 土壌、 土
- 表土区分： 根 、 浮きあり
- 表土区分： 洗堀、 あり

- ⇒ モニタリング地点 2 **大杉林道**

- モニタリング区間を土壌高度計を使って調査
- 地点座標 **N36° 59' 06.6"**
E139° 18' 10.1"
- 表土区分： 土壌、 土
- 表土区分： 根 、 浮きあり
- 表土区分： 洗堀、 あり

- ⇒ モニタリング地点 3 **御池古道**

- モニタリング区間を土壌高度計を使って調査
- 地点座標 **N36° 58' 55.1"**
E139° 20' 1.4"
- 表土区分： 土壌、 土
- 表土区分： 根 、 なし
- 表土区分： 洗堀、 なし

※ 特記事項：

大会当日は気象予報と、標高の高い場所の残雪の状況を考慮して、以下のようにコース変更を行いました。

- 七入駐車場スタート ⇒ 御池古道を登り、駐車場手前の道路に出る手前で折り返す
- ⇒ 七入駐車場まで戻ってから道路を使ってキリンテ登山口まで ⇒ 大津岐峠手前の雪渓で折り返して七入駐車場まで戻る ⇒ 沼山峠までのピストンで終了
- 一 エイドステーションは七入駐車場の一つだけに集約し、より安全な管理を行なった
- 一 折り返しが増えた為、シングルトラックになるキリンテ登山口から大津股峠の幅員が狭まる場所に係員を配置して登山道から外れて植生に影響を与えないように管理を徹底しました。

⇒ モニタリング地点 1 沼山峠下

- 一 ブナ林の中の登山道で、比較的幅は広いが洗堀があり、雨が降ると登山道の真ん中を水が流れて川を作るような形をしていて、道の両側に踏み固められた部分が続いている状況。レース当日の気象状況によっては道の真ん中は水が溜まり、両側部分をランナーが走ることが予想されましたが、実際には雨が強く降ることはなく、多くのランナーが道の真ん中を通り、すれ違いの際に片足を片側に置くくらいの利用でした。

⇒ モニタリング地点 2 大杉林道

- 一 会津駒ヶ岳に向かう登山道には大会当日にはまだ残雪が多く、登山者が入った形跡はほとんどありませんでした。御池駐車場近くの登山道入り口からすぐに上がるところを調査箇所としましたが、急な坂になっており、浮いた根っこも多く存在していました。レース当日はコースとして使用していませんが、レース以外の環境要因を調査する目的で土壌調査を行いました。

⇒ モニタリング地点 3 御池古道

- 一 調査箇所は地下にパイプの埋められている部分で、土壌の硬度は比較的に高い場所であり踏み固められて土壌高度が植生に影響をあたえるほど上がってしまう可能性も考えられた。道路沿いの駐車スペースに近い場所に登山道が通っており、沢山の人が出入りする事が予想される。
- シーズンの始まりで、レース中の登山者は一人も会うことはなかった。また、ランナーが往復で使用した部分も特に荒らされることなく、ほとんど変わらない状況でした。

⇒ 結果

前述した通り、天候と残雪の影響で、コース変更を行い、より環境に対する影響と参加者の安全を考慮した運営を徹底しました。尾瀬の観光シーズンも落ち着き、梅雨に入る時期なので、事前調査に入った際もほとんど登山者とすれ違うことはありませんでした。

レース前にはコース変更に伴って起こり得る以下の注意点を詳しく説明しました。

- 1：全てのルートで折り返しとなるので、選手同士が交差する場所が必ず出てきます。どちらも徐行し、危険のないように譲り合うこと。
- 2：登山道の幅員が狭くなる場所では、登山道から外れて植生に影響をあたえる行為を行わないように、登山道を走ること。
- 3：コースは大会のために入山規制等をしているわけでないので、登山者とすれ違い、追い抜かしをする場合は徐行をし、挨拶をすること。

梅雨入りした後のトレイルは水分を多く含んでいるように見えてましたが、雪解け水が溜まるような場所以外にぬかるみはほとんどありませんでした。

レース開始後は大会スタッフがコース上に点在していましたが、実際に一般ハイカーに遭遇する事はありませんでした。また、檜枝岐村住民の方が所々で応援していただきましたが、レース参加者はそれぞれ挨拶をしながら走り抜け、和やかな雰囲気でした。

折り返しからすれ違う場面も選手たちは徐行、または一時停止し、安全面を十分に考慮し、植生を荒らすような登山道を外れる行為もありませんでした。

最終ランナーについて走る「スーパー・ランナー」がゴミの確認、トレイルの状況確認を行いながら走り、また、各折り返し場所の担当スタッフが最終ランナー通過後に下山する際にコースマーキングの回収を徹底して行いました。

本大会当日に参加した80名のランナーに怪我はなく、途中のエイドステーション（七入駐車場）でリタイヤした2名を除いて、全ての工程を走りきり、78名の完走になりました。

専門家のご指摘に沿ってレース開催11日後にコース環境調査を行い、土壌硬度の確認を行いました。レース後から調査日までの間は毎日のように雨が降り、雑草も増え、11日間での自然の変化にも驚かされました。

土壌硬度計の調査でも大きな変化は見られず、トレイルランニングレースの影響は全く確認できませんでした。

沼山峠下 レース前 土壌調査



沼山峠下の洗堀箇所の調査風景



洗堀箇所の写真 1



洗堀箇所の写真 2



洗堀箇所の写真 3



洗堀箇所の写真 4



土壌硬度計を使った硬度測定

時刻: 2017年6月24日 10時58分



場所名: 沼山洗堀

住所: 福島県 南会津郡檜枝岐村日本 南会津郡檜枝岐村

北緯36度56分55.5秒 東経139度20分8.2秒



標高: 1676.0 m

精度: (手入力)

フォルダ: >ピンフォルダ

ピンの基点との位置関係

GPSデータ



調査箇所の上の木段

沼山峠下 レース後 土壌調査



沼山峠下の調査風景



沼山峠下の調査風景



沼山峠下の調査風景



土壌硬度計を使った硬度測定



GPS

大杉林道 レース前 土壌調査



時刻: 2017年6月24日 12時57分



場所名: 大杉林道土壌硬度計

住所:

北緯36度59分7.2秒 東経139度18分10.7秒



標高: 1560.0 m

精度: (手入力)

フォルダ: >ピンフォルダ

大杉林道 レース後 土壌調査



御池古道 レース前 土壌調査



時刻: 2017年6月24日 13時24分



場所名: 御池古道岩

住所: 福島県 南会津郡檜枝岐村352日本

北緯36度58分55.1秒 東経139度20分1.4秒



標高: 1289.0 m

精度: (手入力)

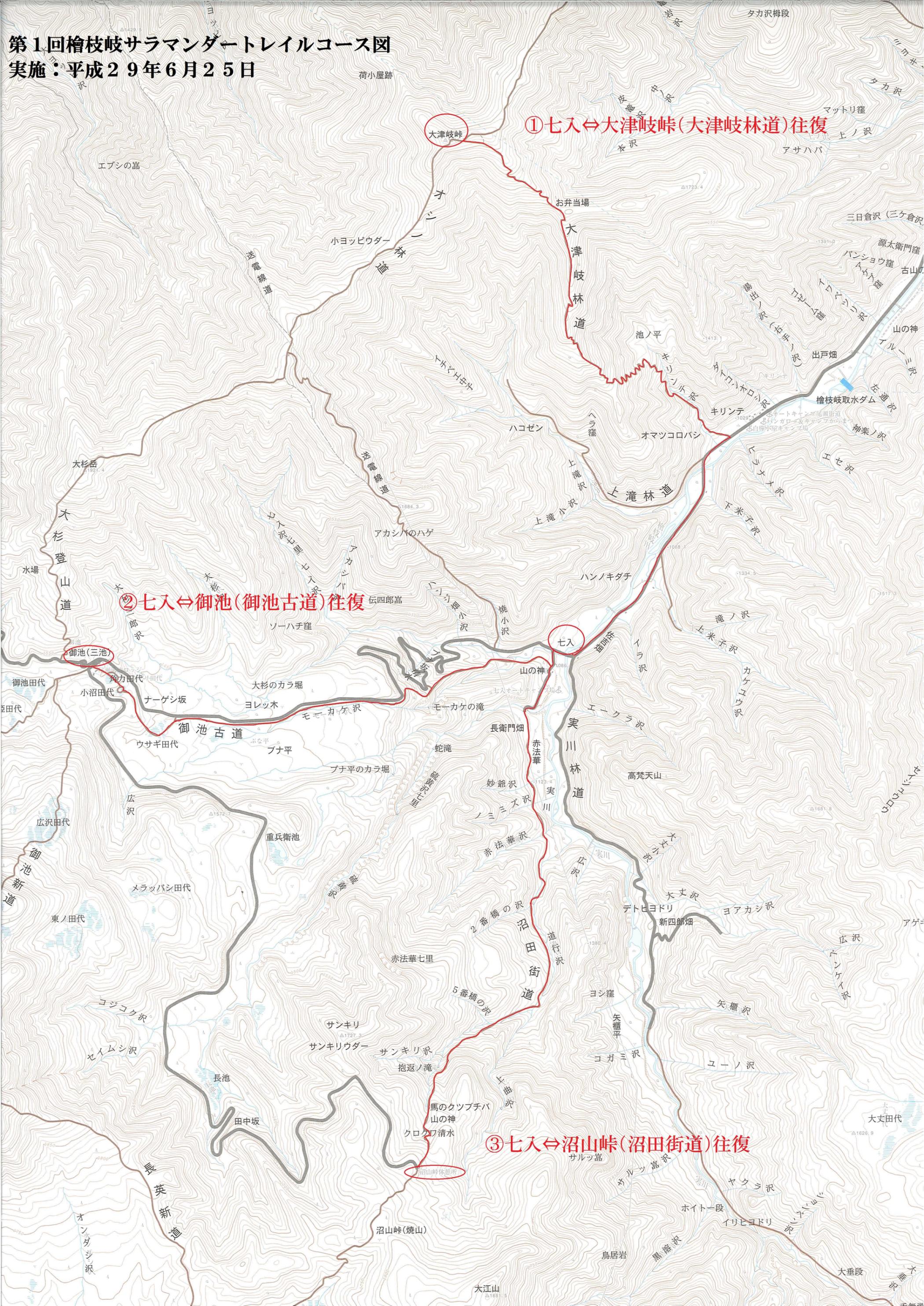
フォルダ: >ピンフォルダ

御池古道 レース後 土壌調査



第1回檜枝岐サラマングートレイルコース図

実施：平成29年6月25日



次世代を担う高校生や大学生、さらには留学生やボランティアなどといった若者を新たなターゲットとして、モニターツアーやフェスティバルなどにより尾瀬の魅力や自然の尊さを体験する機会を創出するほか、SNSを活用した情報発信を通して県民の宝である「ふくしま尾瀬」を国内外に積極的に発信し、尾瀬国立公園入山者数の増加を目指す。

背景

- 尾瀬の入山者数が減少(ピークから半減)。特に福島県側の認知度が低い。
- 登山・ハイキングをする人は、高齢者が多く若者が少ない。



尾瀬を取り巻く環境の変化
 ・特急リバティ会津
 ・Wi-Fi環境整備
 を契機に



発信力の高い
 若者をターゲットに
 尾瀬の魅力を伝える
 事業を展開

事業の内容

(1) 「行ってみよう、ふくしま尾瀬」プロジェクト

①モニターツアー実施事業

若者向けの尾瀬を知ってもらう、次世代につなげるツアーを実施。
(県内の高校生、大学生、留学生等を対象)

②フェスティバル開催事業

若者をターゲットに体験型イベントを核とし、アウトドア関連企業と連携したフェスティバルを開催。

③雑誌による情報発信事業

「山と渓谷」(別冊付録作成)、「るるぶ尾瀬」(ふくしま尾瀬情報を充実させた5年ぶりの改訂)を活用した魅力発信。



(2) 「世界に伝えよう、#ふくしま尾瀬」プロジェクト

①「#ふくしま尾瀬」懸賞事業

インスタグラムを活用した情報発信を促進するための懸賞を実施。

②PR動画作成事業

「ふくしま尾瀬」と歴史・文化などの地域資源を盛り込んだ動画を作成。



事業イメージ

⑩事業対象者 (若者・留学生等)

- (1) ①モニターツアー実施事業
 ②フェスティバル開催事業
 ③雑誌による情報発信事業
- (2) ①「#ふくしま尾瀬」懸賞事業
 ②PR動画作成事業



SNSでの情報拡散



口コミ・リピーター

新たなターゲット
 の取り込み

福島県側からの
 入山者数が増加

ふくしま復興

交流人口
 拡大

地方創生

